

THE YONEYAMA UMEKICHI MEMORIAL HALL REPORT

米山梅吉記念館 館報

2005
(平成17年)

春

Vol. 5

おかげさまで **35** 周年



財団法人 米山梅吉記念館



館報第5号発行に際して

理事長 内藤 成雄

「災」とか「負」の名で総括された平成16年を終え、期待と希望で閉じた平成17年ですが、まだ大雪の異常気象、中越に続いて九州西大地震の自然災害、毎日のように長年高齢や近隣間の悪感犯罪、マネー頼り時代の経済闘争等々、情緒喪失の結果が目立ちます。

全国のロータリーの皆さま、お元気ですか、米山記念館です。こんな時なればこそロータリーライフが貴重に思えます。われわれの迫り理想と夢、平和、親睦、奉仕、愛、等人間だけにしか出来ないことの実現を地球規模でめざす運動に躍を置くことを、救いとも幸福とも感じています。

米山殉古記念館も、おかげさまで苦戦しながらも賑やかな運営が続いています。何よりの励みは全国各地区よりご来館下さるロータリアンをはじめ多くの皆さまの愛かい眼差です。折角お越し下さるのですから、お誘いはかりでなく企画も考えているのですが、人材、情報、財力の不足等その段階に到らず申し訳なく思っています。何卒よい情報やお知らせがありましたらアドバイスよろしくお願ひします。

昨年の館創立35周年の記念事業も終り、今年も春、秋恒例の例祭の外大きい事業はなく館内容の充実にとめておりますが、35周年事業の目玉であった「米山殉古記念館創立35周年記念誌」が本年ようやく完成し、全国の各ロータリークラブ外関係の皆様にお届けできる運びとなりました。本誌は「慈我の人・米山殉古の遺言」としました。本年度のR I会長テーマが「慈我の奉仕」ですが、ちうまく符合しました。1年有半に亘る記念誌発行委員会の井口賢明委員長（和津北RC）以下スタッフの皆さまの苦心の作です。この本は記念行

事の報告的なものでなく米山殉古館を更に知るため、殊にロータリー関係に視点を多く置く編集しました。米山館の記録は沢山あるのですが、散逸や内蔵が多く、集成したものがありませんので、井口委員長らが懸命に収集し資料編に多く頁を割きこの点では決定版に近いと自負しています。

戦争によって中断された日本ロータリー史、旧70地区の日連連合会等のR・I・B・Jにも似た運動史、そして何よりも現在ロータリーに関わっている原点、職業奉仕・親睦界基本的なことが、今も新鮮な米山メッセージとなって資料編にまつておりますので、何卒全国のロータリーのかたがたに読んでいただきたいと思っております。

館の運営は毎回申す通り1,2620地区（館所在）の地区資金、②神奈川の2地区、③米山記念堂の助成、④地区内外のクラブ周年行事の寄附金、⑤賛助会費等によっていますが、今重きをなしているのが⑥全日本のロータリーアン1人年間1000円募金運動です。100円と言ひなけれ、平成15年7月から平成16年6月で4,875,807円を頂きました。本年同じ趣金をした地区運営事業部門の主要な力となっており、米山殉古という名の大きさと全国の皆さまの御理解の深さをつくづく感じます。会員減少に悩む現状の中で有難い極み、何卒今後よろしくお願ひいたします。

館組織は全国から選出された理事・評議員、実際の運営は地区組織内の米山記念館委員会所領のガバナ一委員23名の運営委員によっています。富士山をめぐる景観の地、伊豆箱根の温泉のまちをひかええた地に館はあります。何卒年次計画に米山記念館訪問をお加え下さい。お待ちしております。第5号館報をお送りします。

創立35周年記念式典開かれる

2004年9月18日、米山殉古記念館創立35周年記念式典が東シ総合研修センターにて開催されました。

式典は、米山殉古の孫にあたる米山明、池田はじめ、ロータリー米山記念堂学舎島津久原理事長、東京RC水野正人会長、ロータリーの支店運営委員長、第2620地区運営情報ガバナ一、柏木忠夫委員長、地区役員、そして全国から50余名のロータリアンその他の参加者を得て、賑やかに幕を開けました。

式典では、来賓のご挨拶の後、米山殉古記念館功労者表彰が行なわれました。表彰された方々は次のとおりです。

- 〈米山殉古賞〉
大河原二郎（第2代理事長）
坂本 豊典（第3代理事長）
- 〈特別功労賞〉
長原町 ロータリー米山記念館学生会
長原RC
- 〈役員功労賞〉
東京RC
藤田 幹男 河口陽二郎 中村 明智
- 〈職員功労賞〉
柏木 勲 吉川 邦夫
- 〈功労賞〉
個人
加藤 恒七（国松東） 成川 守彦（青 田） 大西 五郎（加吉川） 柏川 行雄（鎌 倉）
岩波 俊雄（甲府北） 阿河 正昭（坂 出） 富山 富一（新潟南） 浅田 光二（志 水）
鎌谷 弘道（長崎南） 重次 建（長 原） 井口 賢明（和津北） 川本 好子（三島南）
米山 明敏（三島南）

クラブ

- 2500地区/北見東 2510地区/千歳セントラル 室蘭 2530地区/郡山南
2550地区/宇都宮 2560地区/鶴林 三島南 2570地区/鎌谷
2580地区/東江東 草薙 2590地区/神奈川
2600地区/熱海南 伊豆中央 磐田 清水 甲府西 甲府南 御殿場 下田 和津北 和津西 和津東
和津南 浜松東 富士吉田 三島 三島西 三島南 南アルプス 綾津 綾津南
2630地区/岐阜南 2640地区/田辺 2650地区/宇治 福知山西南
2660地区/大阪南 八尾中央 2670地区/松山 松山東 2680地区/加古川平成 福山 船越南
2720地区/中津平成 別府 別府東 2740地区/長崎西 2750地区/東京調布むらさき 東京目黒
2760地区/岩倉 蒲原 名古屋瑞穂



開かれた記念式典

典という人は四代将軍頼朝の四人の弟のひとりです。義仲の嫡子息子が五代将軍の義量という男ですが、この男が、酒と色に溺れて死んでしまったといわれています。実際に年輪的にいうと19歳で若くして死んでしまったのです。惨めな死に方だったと思えますが、この後継軍をたてなければならぬことになったとき、将軍になりそうな位置にいる兄弟たちがみんな種はいやだと逃げてしまい、固り果てて重臣たちがとても奇妙な死なややかたで六代将軍を作ってしまったのです。どういやり方をしたかという点と重臣が何人か寄り集まってくじをひいたのです。将軍を決めるのにくじ引きして決めるというのは今の日本の政府も似たようなものですが、かなり無茶苦茶な選び方をして一人決まった人がいたのです。この人は他は誰だといいたくないから出家してしまっただけで、結局くじにあてられた男が義教なんです。仕方なく将軍職につかされた、僧侶に入っていたところを遣返させられた義教さんですからやる気もあまりないです。そういう人が富士山を見たといっています。きて五日間も六日間もずっと寝てもさめても富士山を眺めていたというのは、よほど暇があった。考え方によっては阿呆じやないかという、本当に阿呆かどうかはわかりませんが、この時代は実は時代的に行くと士一揆があつて本当に世の中が荒れ果てていたわけです。ですから富士山を眺めるなんてそんなにはんびりした気もないです。

そういう意味からすると富士山を眺めに行ったというのも京都からわざわざわざわざ下ってくることによってにらみをかきさせたということがあります。京都からわざわざ鎌倉に近い富士のすそのまで来た。というのは将軍の威光を示す高に一種のデモンストラーションかもしれない。彼の少し上の人が三代将軍の義満ですが、義満というのには非常に偉大な将軍ということになっていきますね。義満も関東へのらみをかきさせるために富士山を遊覧したという歴史があるのです。

義満がかわいがっていた役者の一人が世阿弥です。義満に遊覧された世阿弥を六代目の義教はとつても憎んだのです。そして義教は世阿弥を押し出そうとしてその代わりに世阿弥の婿っ子の音阿弥という有名な能役者をひきかたてて、世阿弥という偉い能役者を佐渡に渡した張本人なのです。義教は実に奇妙な天型な愚問をとげます。ある日、義教が義教が婿っ子のお祝いの祝宴を赤松康徳という力の強い大名のお家でやるとしたところ、赤松の息子康徳が突然乱入してきてお客で来たいた義教をばつと切り殺してしまつた。ですから富士山というのにはそういう血なまぐさい混乱の時代の人々に大変尊重されていた山であつたといことも明らかです。

時間が経ちましたのでこれで失礼しますが、今日は宮崎君と草間さんの講演もお聞きできてよかったです。ありがとうございます。



大岡氏、内閣府参事長を中心とした式典に参席の来賓

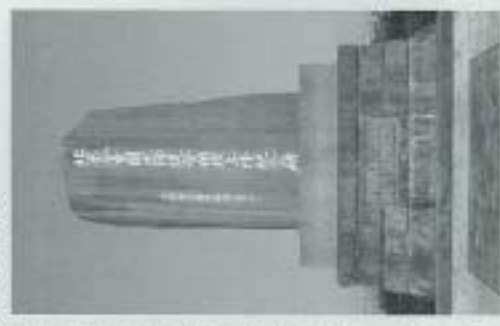
記念誌編集集

余話 (2)

米友協、米山梅吉 として野口英世 沼津北RC 井口 賢明

記念館の日につかない場所から『米友協會史』という資料がでてきた。

米友協会というのは、アメリカに遊学若しくは在留した人の懇話会である。明治31年12月に設立し、明治39年9月からは、金子堅太郎が会長となった。米友協会の一番大きな事業は、明治39年7月にベリール米友協の記念碑を作ったことである。太平洋戦争末期、米友協の東京支部を中心に、これを模倣し道路に敷くという運動が起った。昭和20年2月の頃は引き倒されたが、その材料費用に、戦後となって生き延びた。昭和41年に復元された。現在は秋田県内久保町のベリール公園にその記念碑を建てている。



島上けんばかりの遺々たるベリール米友協記念碑 伊藤は伊藤賢文

米友協会、沼田半之助が中心となり設立され、その後も常任幹事として運営されてきた。沼田は、米山と同じ明治元年の生れで、結婚して一女をもうけた後、明治23年12月妻子を喪し、單身アメリカに渡った。ナンフランシスコで洋風屋を開き、5年たつて帰国した。東京都立で洋風屋をはじめ、片山勝らと労働組合の結成に奔走した。日本の近代労働組合運動の草創的存在である。

米友協、米山梅吉 として野口英世

沼津北RC 井口 賢明

米山梅吉の米友協会へのかわりである。『會史』によれば、米山は発起者の一人として、その設立にかかわった。米友協会は、春秋2回の懇話会、米山大衆や日本の米友協会の懇話会や米友協会を擁しているが、その出席者には米山の姿はみえない。サライーマンの身であるのか、これらの会にはあまり出席しなかつたとみえる。

この『會史』は、明治44年6月30日に発行されたものである。そのときにおける39名の会員の名簿がある。金子堅太郎と野口英世という人物が名を連ねている。当時、日本の政治、社会を動かしていた人たちの集まりだったといえようである。このなかには、米山をはじめとして、東京ロータリークラブの創立メンバーのうちの10名の名前がある。東京クラブ創立後の大正12年8月に会員となった血闘守之助の名前もある(この入会は、米山の推薦によるものであろう)。この血闘守之助をみると、このときまでにアメリカに渡った形跡がない。このことからすると、米友協会は、遊学若しくは在留した者でなくとも、会員となりえたのであろう。

昭和6年6月に今回の資料である『會史』を復刻版に刊した沼田の遺族が解説によれば、沼田は、昭和9年に死したが、(如藤、小松(後)、米山、今井(五介)、倉地(結夫)、山村氏等に看取られ、生涯を閉じた。伊藤は、米山が幹事委員長となり、友人兼で行なわれたとある。沼田と米山は、ナンフランシスコ時代に出会ったのである。また、沼田と米山は、深い交わりであったようである。沼田は、白谷の娘を血闘に預けている。

米山と血闘の関係である。血闘の伝記によれば、血闘は、明治19年10月明治学院に転校した。そして、明治19年10月まで血闘にあり華英大衆を率えて東京一校英和学院と評され有名であったが、明治十九年六月東京一校英和学院と合併し芝白金山講堂に設立された事件



東京ロータリークラブ

会長 野正人

かつて日米両国は友好の一環として板と花水木を交換しました。ところが、明治末期当時の尾崎行雄東京市長が贈った板は、ワシントン・ポトマック河畔で毎年見事な花を咲かせ、名所になっており、また花水木は実を結ぶことが出来ませんでした。



評論家光畑秀雄氏はこのことを深く感かれ、週刊朝日昭和41年5月3日号に随筆を発表され、その文章の最後は次のように結ばれていました。「それにしてもおもしろいことである。こちらから贈ったポトマックの板は米国民の丹精で世界的名所になっているのに、向こうからプレゼントされた花水木は、広く愛されもせずさびれた姿である。これでは花の交換も一方通行という様か。花水木の立派な名所を造ってこそ花の親善も互いに花咲き実を結ぶというものだろう。ロータリークラブなどがひとりで頑固いのみならずどうだろうか」

ここで、東京RC50周年に際して、51代会長横河時介(1970~71)は例会で、花水木を改めて米園からもらい受け、どこかに植えたかどうかと提案しました。折しも、来日して例会に出席していた第745区バスバスター(後のR1副会長)のローリング氏(Mr. George Ublig)が賛同し、アードモアRCより青蓮の申し出があり、1971年4月に花水木が贈られてきました。



アードモアRCの五々と青蓮ホテルにて

2004年5月に開催された大阪国際大会の帰路に東京に立ち寄られた、アードモアRCクレバー会長エレクト(Mr. Douglas Klepfer)、ローリング未上人、ハンセン氏一行を、北の丸公園にご案内し、30年を経て受け継がれている両園の友好の証・花水木の立派な生長ぶりを確認していただき、青蓮ホテルに席を移し、花水木

2004年5月に開催された大阪国際大会の帰路に東京に立ち寄られた、アードモアRCクレバー会長エレクト(Mr. Douglas Klepfer)、ローリング未上人、ハンセン氏一行を、北の丸公園にご案内し、30年を経て受け継がれている両園の友好の証・花水木の立派な生長ぶりを確認していただき、青蓮ホテルに席を移し、花水木

光を浴びることになった野口英世が寄宿。養生をしていた。血脈は、野口の人生の師であり、大恩人である。周囲の執事をよそに、自らの興味をも顧みず野口の全体的な傾向を見ていた。野口から血脈への手紙には「血脈の同山(現代博士)等がいて、絶ての学科を一切英語でもって教授し、生徒も英語でもって答えるという面であったので、守之助も一そう敬慕に陥ることができた。学生の中には島崎藤村、中島久高(後の商工大臣)多野吉兄弟、米山梅吉(後の三井物産社創始社長・日本ロータリークラブ創始者)がいて、中島は大いに秀才振りを見舞い、後に米山はいろいろ財源面で守之助を後援した。」とある。「血脈守之助傳」昭和54.02.24 学校法人東京歯科大学、これからすると、米山と血脈は、野に米山の養米(明治20年12月)前から知り合いであった。米山を養父として、血脈と野口のつながりができたということになるであろうか。また、血脈は、それより前にかくつかの学校で、池田晋平(成彬)と縁友であり、池田の冤案により、血脈、池田ら五人が「養命会」を組織している。後に三井銀行で、池田、米山がともに常務になったことなど、人のつながりが線の日のように、興味深い。

野口は、大正10年10月、慶應義塾を退社する英米詩用家集団に属わり、アメリカに渡った。このときのこととは、米山の歌日記「八十七日」にある。その12月13日に「我が某東洋一行の来日、アヤタニア号にて英国に向ひ出帆するを送り、余も閉日一日を余すのみなれば残れる用事を押し、夕刻某博士を某インスチテュートに呼び、相成りて共に友人の家に日本料理の饗宴を受く」という文章がある。某博士、某インスチテュートが野口英世、ラッダゾラー研究所であることは明らかとなっている。当時、野口は、スピロヘータ、黄熱病原菌の発見などで脚光を浴び、世界的に名の知られた科学者であった。大正4年には日本でも帝国学士院より恩賜賞をうけ、いわば制度している。

代形であるが、この意見の相違しをしたのが血脈である。米山が野口に会おうとして、血脈に仲立ちを頼んだのが、血脈がアメリカに行くなら野口に会ってこいと勧めたのは別として、血脈は、その後の大正11年、日本の歯科界を代表する立場(日本歯連合歯科医会会長)で、ヨーロッパ、アメリカに行った。アメリカでは、野口と共に、アメリカ大統閣ハーディングを裏切りにしている。野口が国際法曹とヒューズと親しく、その縁によるものようである。

これら後に名をなした人の若い時代を見て、ある出合からそれが大いに関わりとなってあらここに広がっていくことに目を覚ますものがある。そして、若かりしころの強烈な意気力、野性を忘れられた日よりもよりの努力に驚嘆するばかりである。

して新たに明治学院となった。教師は多くの外人のほか、慶應大学第一回卒業生の石本三太郎(明治学院教授、後米蘭ブリストン大学に留学中死亡)、原野被母(後の岡山県代議士)等がいて、絶ての学科を一切英語でもって教授し、生徒も英語でもって答えるという面であったので、守之助も一そう敬慕に陥ることができた。学生の中には島崎藤村、中島久高(後の商工大臣)多野吉兄弟、米山梅吉(後の三井物産社創始社長・日本ロータリークラブ創始者)がいて、中島は大いに秀才振りを見舞い、後に米山はいろいろ財源面で守之助を後援した。」とある。「血脈守之助傳」昭和54.02.24 学校法人東京歯科大学、これからすると、米山と血脈は、野に米山の養米(明治20年12月)前から知り合いであった。米山を養父として、血脈と野口のつながりができたということになるであろうか。また、血脈は、それより前にかくつかの学校で、池田晋平(成彬)と縁友であり、池田の冤案により、血脈、池田ら五人が「養命会」を組織している。後に三井銀行で、池田、米山がともに常務になったことなど、人のつながりが線の日のように、興味深い。

氏名	職名	所属	備考
小野 武	会長	三井銀行	三井銀行が株式会社と改組した明治42年10月、池田成彬、米山梅吉がともに常務取締役となる
野 口 英 世	副会長	三井銀行	
池 田 晋 平	副会長	三井銀行	
中 島 久 高	副会長	三井銀行	
米 山 梅 吉	副会長	三井銀行	
多 野 吉 兄弟	副会長	三井銀行	
島 崎 藤 村	副会長	三井銀行	
原 野 被 母	副会長	三井銀行	
石 本 三 太郎	副会長	三井銀行	

血脈は、東京歯科大学(後の東京歯科医学校専門学校、東京歯科大学)を創立した。それだけでなく、日本の近代歯科医学の創始者ともいえる人物である。生誕のところに、一時期、新千円札の発行で今改めて詳

200本の贈呈式を行い、両クラブで和やかに懇親会を開きました。

花水木の苗は4月上旬に東京に届き、ご縁があつて、東京調布むらさきRCの会員である専門家の方々にお手助けいただき、12月中旬に米山梅吉記念館をはじめ、公園、学校、公共施設、希望会員宅へ届けることができました。



東京調布むらさきRCの会員が花水木の苗を届ける様子
(東京調布むらさきRCの職員が苗を届ける様子)

RI創立100周年を迎える年に、桜と花水木を結ぶ縁が、東京調布むらさきRCとの新たなクラブ交流へと広がりました。また、米山梅吉記念館には1995年に寄贈の2本に加え、この度さらにピンクと白の花水木を寄贈させていただきました。

《ご参考資料》

☆花水木植樹の記録

- ・1973年 泉岳北の丸公園に花水木 300 本植樹
- ・1974年 泉岳北の丸公園に花水木 300 本植樹
- ・1977年 東京都水元公園に花水木 120 本植樹
- ・1978年 東京都水元公園に花水木 50 本植樹
- ・1980年 国際ロータリー75周年記念事業として全国17地区のクラブに花水木2,140 本寄贈
- ・1995年 東京RC創立75周年記念事業として米山梅吉記念館落成記念に花水木2 本寄贈
- ・1996年 ひょうごグリーンネットワークに白の花水木 100 本寄贈
- ・1998年 盛岡ロータリークラブ創立60周年記念として紅白の花水木2 本寄贈
- ・2004年 米山梅吉記念館2本、千代田区外務公園7本、他計200 本植樹

☆花水木を見る会開催日

- ・1991年4月24日(水)
- ・1992年4月22日(水)
- ・1993年4月28日(水)
- ・1994年4月27日(水)
- ・1995年4月26日(水)
- ・1996年4月24日(水)
- ・1997年5月7日(水)
- ・1998年5月6日(水)
- ・1999年4月28日(水)
- ・2000年4月26日(水)
- ・2001年4月25日(水)
- ・2002年4月24日(水)
- ・2003年4月23日(水)
- ・2004年4月21日(水)
- ・2005年4月20日(水) 予定



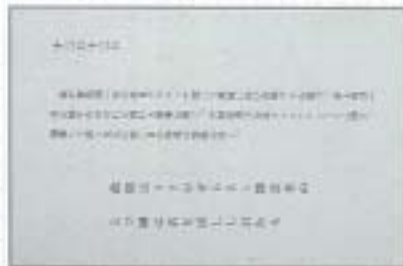
東京RC寄贈の花水木の植樹
(米山梅吉記念館前) 東京RC寄贈の花水木の植樹

内藤成雄記念館理事長お手ずから植樹していただきました。
北の丸公園の花水木の下にある記念碑には「花の心が世界を結ぶ。(故長瀬富太郎東京RC会員作)」と書かれています。東京RCは、先達の残されたこの言葉を大切に守り、機会あるごとに花水木の植樹をし、花の心とともに世界にロータリーの精神を広げ、友好と平和の建橋に寄与したいと願っております。

文芸 館展示の米山翁の書解説

「八十七日」

大正11年(1922)出版



大正10年10月、米山は英米訪問実業団の一員としてアメリカに渡った。87日間のこの旅は、ワシントンの東部会議などに参加するという仕事の一環。その年に亡くなった長男東一郎の鎮魂と自分自身の感傷の記録もあつたように思われる。この本は旅行記をかねた歌日記の形を呈している。

またこの旅の途中で米山は、新千円札の顔となつた野口英世にも会っている。そしてロックフェラー研究所を訪れて、

夕刻某博士を某インSTITUTEに訪ひ、相携へて共に友人の家に日本料理の饗応を受く

故郷にうとむせらるゝ平昔者の
とつ園に名を成しし君かも

と野口博士のことを詠んでいる。
「日本人は一日に一回しか寝ない」と噂されるほど熱心に自分の研究に没頭していた野口英世と故郷を離れ海外で活躍する日本人の姿にふれた米山、共に和歌や俳句を趣味とする者同士は、初対面であつても旧知の感懐であるかのように話はずんだことだろう。

竜舌蘭

百年に一度だけ咲いて枯れるともいわれている竜舌蘭。昭和六年、下土狩の別荘にあつた竜舌蘭の花が開花した。梅吉翁はその時に通りあつた偶然と幸運を「故郷の庭に竜舌蘭の花をけるに」と題して三首歌つてている。

めでたしと人のたゞふるにまかせつゝ、
高々と咲けり竜舌蘭の花は
水に沖しとけるこの蘭を、しくも
雲を呼び来て己が色とせる
百年に一たびのさかえ花さきて
枯るとふこれの蘭の奇しも



別荘の庭に咲いた竜舌蘭

竜舌蘭が咲いたという知らせを聞き、梅吉翁の短歌の辞でもあつた歌人佐木信綱氏が別荘を訪れた。記念館の庭にある竜舌蘭の花が次に開花するのはいつのことであろうか。

(財)米山梅吉記念館創立35周年記念誌

あしおと 超我の人 米山梅吉の足音

日本のロータリーの父、米山梅吉の知られざる素顔、新発見のエピソードを満載。
米山のガバナー通信（仮称）はじめ、今まであまり日の目を見なかった記録を資料編に多数登載。
米山梅吉、米山梅吉記念館をさらに深く知る絶好の一冊です。

内 容

- ・米山梅吉 その生い立ちと人となり
- ・米山梅吉 そのロータリーとのかかわり
- ・(財)米山梅吉記念館の歴史
- ・資料編

頒布価格 2,500円

●お申込み お問合せ

(財)米山梅吉記念館

TEL055-986-2946 FAX055-989-5101

—100円の細い糸が館と全国を結ぶ—

(財)米山梅吉記念館

全国1人年間100円募金運動 全国ロータリアンに向けて

引続き展開中の運動です。既にご送金いただいた個人、クラブ、地区も相当ありますが、この運動は当分の間、事業費の不足をおぎなうために毎年度継続して行っております。クラブ単位、地区単位でご送金いただく方が便利ですが、勿論個人でも結構です。この運動も任意のご意志によってお願いしております。何卒よろしくお願いたします。

申し込み、振込先 (100円募金)事業資金振込先
郵便振替口座 番号 00820-4-57730 財団法人 米山梅吉記念館

賛助会費ご協力をお願い

理事長 内藤 成雄

館運営及び事業費の一部にあてるため、自主的な善意により引続き賛助会員による賛助会費の運動を続けております。会費は、お一人年3,000円（1口）です。

個人でもクラブ単位でも結構です。何卒よろしくお願いたします。

申し込み、振込先 賛助会費振込先
静岡銀行 下土狩支店 普通 0367598 (財)米山梅吉記念館 理事長 内藤成雄

訂正のお願い 館報№4 表紙写真人物説明（左）宮本常次郎氏は宮岡恒次郎氏の誤りでした。訂正しお詫び申し上げます。

米山記念館及び館報へのご意見、ご感想、寄稿等お寄せ下さい。

米山梅吉記念館報

Vol. 5

発行日 平成17年4月23日
発行者 (財)米山梅吉記念館 理事長 内藤成雄
〒411-0941 静岡県駿東郡長泉町上土狩346-1
TEL (055) 986-2946 FAX (055) 989-5101
印刷 フタバ印刷株式会社

開館時間

午前10時～午後5時
（但し11月～3月は午後4時まで）

休館日

月曜日
（12月28日～1月4日 整理のための休館日）